

くらしナビ 生活 Lifestyle

kurashi@mainichi.co.jp

「偏見なくす」多くの試み

境界を生きる

LGBT先進国・カナダ

—上—

同性愛や性同一性障害などの性的マイノリティー(LGBT)を取り巻く環境は、時代や国によって大きく異なる。多文化・多民族国家のカナダは05年、同性間の結婚が合法化された「先進国」の一つだ。特に性的マイノリティーに友好的とされるトロントで、若者や子どもたちに対する支援の現状取材した。【丹野恒一、写真も】

五大湖のオンタリオ湖岸にあるカナダの最大都市、トロント。性的マイノリティーの多様性と共感をアピールするイベント「プライド・トロント」最終日の7月1日、メインストリートでは10日間のイベントを締めくくる恒例のパレードが行われていた。参加者は3万人に上り、沿道は国内外から集まった120万人の観衆で埋め尽くされた。思い思いの格好で歩く当事者たちに加え、警察や銀行など「お堅い」イメージの組織も「あなたたちの生き方を支持する」と書かれたプラカードを掲げて歩く。ひと

きわ目を引いたのが、トロント地区教育委員会。巨大なトレーラーの荷台に教員や生徒らがぎっしりと乗り込み、沿道から歓声を浴びていた。トロントには、LGBTの生徒だけを受け入れる国内唯一の公立高校がある。85年の開校で、定員は40人。授業には教会の地下を使う。州外の出身者も受け入れており、寄宿費や通学費などの不足分は教会が支援する。「親に見放され、地元の学校でもいじめ抜かれた子ども



プライドパレードでLGBTへの共感と支持をアピールする教員や生徒ら(トロント)



「責任の重さに逃げ出したいこともあるが、やりがいはある」と話すボランティアさん

LGBT

レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(心と体の性が一致しない人=性同一性障害)の頭文字を並べた性的マイノリティーの総称。

当事者だけの高校も ■ 同世代に体験語り

歳以下のこうした言動には警察への通報義務がある。同校は警察と協力して、自殺回避のためのプログラムを受講させた。「希望なんて何もなかった子どもたちが、自分を見つめ直し、生きるための夢を探すことに力を貸したい」

「地下鉄に飛び込みたい」などと自殺をほのめかした。16人が集まってくる」と、数学期担当のボランティアさん(41)。精神的なダメージを受け、入学してもすぐに勉強を始められない子もいる。「心を開くまでに何カ月もかかることがある。3人の専任教員が、カウンセラーやソーシャルワーカーの役も担う」

同校に配置される教員はLGBTの当事者。ボランティアさんもゲイだ。「私にもつらい道を歩んだ過去がある。同じ経験を持ち、一体感を持つ『モデル』の存在が大切だ」この1年で3人の生徒が7年間のボランティア経験を持ち、現在は指導役を務める

「地下鉄に飛び込みたい」などと自殺をほのめかした。16人が集まってくる」と、数学期担当のボランティアさん(41)。精神的なダメージを受け、入学してもすぐに勉強を始められない子もいる。「心を開くまでに何カ月もかかることがある。3人の専任教員が、カウンセラーやソーシャルワーカーの役も担う」

アジア系、厳しい現実

LGBTに友好的なカナダに憧れる日本人の当事者は少なくないが、トロントにあるエイズ対策の民間団体で東・東南アジアの若者への教育プログラムを担当する日本人、キャシーさん(26)は「LGBTの天国だと思って安易に留学を決めるのは控えて」と語る。特にゲイの場合、コミュニティは白人中心で構成され、鍛え上げた肉体美を競い合うところがある。「小柄で筋肉質でもないアジア人は相手にされにくく、二重のマイノリティーになって傷付くことがある」。また、トランスジェンダーへの理解は、日本と比べ相対的に低いという。

「希望なんて何もなかった子どもたちが、自分を見つめ直し、生きるための夢を探すことに力を貸したい」

「希望なんて何もなかった子どもたちが、自分を見つめ直し、生きるための夢を探すことに力を貸したい」

「希望なんて何もなかった子どもたちが、自分を見つめ直し、生きるための夢を探すことに力を貸したい」